【元杉並区長・山田宏氏 成人式は英霊の遺書を】

(2010年2月2日「頑張れ日本!全国行動委員会結成大会」より)

ご紹介頂きました杉並区長の山田宏と申します。

杉並区は最初に扶桑社の教科書を採択した区です(拍手)。

元々左巻きの人たちが多いところで(会場:笑) 大変な 反対を受けました。しかし私は、日本の自立というのは 過去の先人たちの喜びや、涙や、血や汗と、しっかり若い 人がつながってこそ再生する(拍手) 自分から過去の人た



ちと違うんだと、無責任、他人事、無関心を決め込んでいる日本人がいる限り、日本は再生しない んです。そういう想いで、扶桑社の教科書が採択されました。

その時もっともひどい反対をしたのが、在日の韓国人の団体でありました(拍手)。

傍聴席に異常な数の人たちが動員されまして、大きな声で、私が答弁をいたしますと、答弁が聞き取れないぐらいのヤジが飛びました。区長室の前では、そういう方々が陣取って、シュプレキコールをしました。

私はそのことに対して、外国の人が、外国の教科書に対して、外国の指定の教科書に対して、 そこまで口を挟むのはエチケット違反である(そうだ!(拍手))。だから区長室への入室を今後は お断りすると、こうしたわけです。

もし外国人の参政権が認められるような事があれば、こういう人たちが大手を振って、地方議会や、 地方の首長に圧力をかける事になるでしょう。私たちの国民の子供たちの教育は、国民が決めるもの なんです(拍手)。

私は10年間この仕事に就きましたけれども、成人式を最も大事にしておりました。

成人式で新成人に話す言葉は決まっておりました。毎回一緒です。

それはどういう事かと言いますと、「成人になるには2つの事を今日考えてほしい。一つは君ら を育てた両親への感謝だ(拍手)。もう一つは「君たちが知らない人たちの話をしよう」と言って、 靖国神社に納められている英霊の言葉の中から、戦死をされた方の遺書を拝読するのです。

ほとんどの成人式が大騒ぎになっている中、杉並の成人式では一切荒れることもなく、シーンとこの遺書の言葉を聞くんです(拍手)。それは最初はザワザワしていても、みんな、みんなと同じ年の人が、60数年前にこういった遺書を書いている。だから聞いてくれと言って読みますが、読んでいるうちにシ~ンとなります。

前の方では目頭を押さえている女性の方もいらっしゃいます。私はそういう話を紹介しながら、彼らに対して、みんな過去ニッポンには戦争があった、こういう人たちが、みんなと同じ年の成人が、尊い命を捧げて、今のニッポンがあるんだ。この人たちの想いまで、君らは立派な人間となって、立派な日本を作る義務がある。

お母さん、お父さんに感謝すると同時に、こういう尊い犠牲を払った人たちにも乾杯するととも に感謝をして欲しい。

こう言えばみんなわかるんです。みんなシーンとなるんです。過去の先人たちの努力と、成人が 結びつく一瞬なんです。彼らの背筋がピンと伸びるのを感じます。

この話を毎回するたびごとに杉並区の中にいる一部の勢力が、翌日鬼の首をとったかのように、「区長がまたしても特攻隊の遺書を読んで、戦争を礼賛した」というビラを配り続けます。しかしそんな事を思っている成人が一人もいないのは私に寄せられる感想文を見ればすぐにわかります。

彼らは素直にそういう人たちがいたのは知らないと、自分は今までの事を反省して、その人たちの分まで立派に生きますと、そう言っているんです。

ニッポンはね、捨てたもんじゃないんです。我々大人がしっかりすれば、ニッポンはほんとはこんなていたらくにならないはずなんです。杉並区でそういうことが証明されています。どうかこの機会にみなさんの力を結集して、ニッポンはもう正念場しようという時になりました。アレコレ言っている状況ではない。それぞれの人が小異を捨てて、大同について新しい日本を作りましょう。どうぞよろしくお願いします。ありがとうございました。

東條英機 歴史の証言 東京裁判宣誓供述書を読みとく(渡部 昇一)

【昭和26(1951)年5月、アメリカ上院の軍事外交合同委員会、マッカーサー発言】

Their purpose, therefore, in going to war was largely dictated by security

(彼らが戦争に突入した主たる動機は、自衛のためだった)

この英文は、すべての日本人が覚えておかなければなりません。 日本人はいまこそ、本当の「昭和史」を知るべきなのです。(渡部昇一)

. **.** .

渡部昇

「はじめに この第一級資料が、なぜ埋もれていたのか」

この供述書が、これまで顧みられずにきた理由とは

いずれにせよ東條さんの宣誓供述書が残されたことは、日本人にとって有難いことであった。 その後間もなくマッカーサー自身が東條さんの主張が正しい事を認めたではないか。ただ大東亜戦 争に対する東條・マッカーサーの史観が、日本人の間に普及していないことが残念である。

その主たる理由は今では明らかだ。占領期間中、二十万ともいわれる人たちが公職追放となったからである。この追放令の中心は民放局のケーデス一派だと言われる。彼らはアメリカ民主党の左派であり、中には後にコミンテルンのエージェントだったと判明した者もいた。石橋湛山や松下幸之助も追放されたのだから、その基準がいかに無茶苦茶なものであったかわかる。その公職追放令の嵐の中で、うんと得をした者たちがいた。戦前の左翼思想家や在日コリア人などなどである。特に重要な敗戦利得者は、左翼インテリだった。 (中略)

例として二人の学者の名前をあげたが、これは典型的な敗戦利得者で、そのほかの例は数え切れない。この敗戦利得者たちは日本の主要な大学の主要なポストを占め、その弟子たちは、あるいは日本中の大学に教授として散らばり、あるいは大新聞の記者となった。正に癌細胞の転移にも似た様相を呈したのである。

こうした敗戦利得者とその弟子たちが、戦前の「日本のよさ」とか「日本の立場や言い分」を 肯定することはない。東條さんの宣誓供述書が戦後の日本の学界や言論界でまともに取り上げられ ることがなかったのは当然である。しかし敗戦日本を支配し、東京裁判史観や公職追放令のもとの もとだったマッカーサーさえも、東條史観に同感していることは日本人の常識なってよいと思う。

おわりに 虚偽につき固められた「昭和史」に決別を

マッカーサー証言の持つ万鈞の重み

マッカーサーも後になって「日本の言い分は正しかった」と言っています。これは「東條の言い分が100%正しい」と言っているのと同じことです。ですから私は、このことを日本の人に知ってもらいたいのです。

事実、この上院外交軍事合同委員会におけるマッカーサーの言葉には、**魔法の働きがあります**。 私が知っている一例を挙げると、平成17年(2005年) 杉並区ではどうも「新しい歴史教科書を つくる会」が編集した歴史教科書(扶桑社)が採用されるのではないかという情報が流れ、荻窪駅 あたりでは山田区長を弾劾する演説が行なわれ、ビラがまかれていました。採択を阻止する思惑も あってか、教科書の採択決定を前にした区議会において、区長に対する質問が行なわれました。

杉並区議会は少し変わっていて、全共闘崩れの議員が2,3人、議席を占めています。彼らは、保守的な傾向を持つ山田区長を、とっちめてやろうという意図だったと思います。それがわかっていますから、当日の傍聴席にはその筋の人々で満席の盛況で、異様な雰囲気でした。

そこで件(くだん)の議員から、「区長、あなたはこの間の戦争を聖なる戦争だと思っているのか。侵略戦争だと思わないのか」という主旨の質問がありました。

それに対して山田区長は、「侵略、聖戦というと定義が難しいから、それには立ち入らないとして、この前の戦争が侵略戦争ではなく自衛の戦争であったということは敵の大将のマッカーサーがちゃんと言っている」と述べ、先に紹介したマッカーサーの発言を原文で暗唱したのです。そうすると、わいわい騒いでいた議場が突如シーンとなり、それで終わりました。これは魔法の言葉です。ですから私は、日本のすべての人にこの文言を知ってもらいたいのです。